

2023年中野ハイティーン会議での意見表明内容と区の対応状況

中野区子ども・教育政策課

(対応方針の凡例)

◎:全部実施可能 ○:一部実施可能 ●:実施済み △:検討中 ×:実施不可

No.	グループ	意見の要旨	担当部 (担当課)	対応方針	対応方針の理由・説明	対応・実施結果
1	中高生の居場所づくり検討グループ	○児童館は幼児や小学生の居場所というイメージが強く、区には、中高生が学校帰りに寄り道できたり、気軽に集まることができる居場所がないと感じている。遊びや勉強など、やりたいことをやりたいときにできる中高生の居場所を早急に設置して欲しい。 ○「中野区児童館運営・整備推進計画」では、「中高生機能強化型児童館」の大幅な改修もしくは建替を検討・推進するのが2025～2028年とされている。現在の計画では自分たちが利用できないため、前倒しで検討・開館して欲しい。	子ども教育部 (育成活動推進課 子ども・教育政策課)	○	○ハイティーン会議メンバーが企画したような「中高生の居場所」となるイベントを令和6年度に2回開催しました。また、既に整備されている「なかの」の子ども学習スペース」等、中高生向けの施設情報を積極的に発信していきます。 ○「中高生機能強化型児童館」の整備については、表明された意見の他、利用の当事者となる対象年齢層及び近隣の区民の声等を取り入れながら検討しています。前倒しでの開館は難しいため、ソフト面の対応として上記の「中高生の居場所事業」を、令和7年度以降も定期的に開催していきます。	若者情報発信アカウント(X)にて、子どもの学習スペースを周知しました。 中高生の居場所事業を区役所にて2回実施しました。令和7年度は回数を拡充し、区有施設等を活用して5回の実施を予定しています。
2	多様な校則検討グループ	○校則について、大人に聞いても意味や存在意義について説明ができなかったり、子ども側も見直しを諦めたり、見直しする動きへの関心が低いといった課題がある。 ○校則の見直しや改善について、教員と生徒が話し合う機会がないため、大人と子どもが同じ立場で校則について話し合う場が欲しい。	教育委員会事務局 (指導室)	○	区立中学校では、生徒会等の活動や生徒アンケートなどを通して、生活の決まりについて意見を述べる場を設けて見直しを行っています。例えば、靴下やセーター、コートなどの色について、生徒会での話し合いや生徒と教員との協議を通して決定しています。今後も提案された意見等を踏まえて、学校が考える教育的意義と誰もが過ごしやすく納得できる校則のあり方について、改めて生徒や保護者、地域に、保護者会や学校だよりを通して丁寧に説明していくよう助言していきます。	区立中学校では、生徒会等の活動や生徒アンケートなどを通して、生活の決まりについて意見を述べる場を設けて見直しを行っています。例えば、靴下やセーター、コートなどの色について、生徒会での話し合いや生徒と教員との協議を通して決定しています。今後も提案された意見等を踏まえて、学校が考える教育的意義と誰もが過ごしやすく納得できる校則のあり方について、改めて生徒や保護者、地域に、保護者会や学校だよりを通して丁寧に説明していくよう助言していきます。
3	音楽を通じた多世代交流グループ	○音楽を通じて様々な世代の人と交流できるようなイベントを開催して欲しい。 ○より多くの交流を生むために、公園で自由に音楽演奏ができるようにして欲しい。 ○中高生でも公園の占有許可申請をしやすいようにして欲しい。	区民部 (文化振興・多文化共生推進課)	○	【○音楽を通じて様々な世代の人と交流できるようなイベントを開催して欲しい】について文化施設における様々な世代の文化芸術団体が発表できる場である「区民フェスタ」をはじめ、新庁舎1階スペースなどを活用し、区民同士の交流機会を創出していきます。	各事業を通して、中野区で活動する多種多様なジャンルの文化・芸術団体の発表の場、交流機会が創出されました。
			都市基盤部 (公園課)	○	中野区立公園条例では行為の制限として他人に迷惑を及ぼす行為をすることが挙げられています。これは音楽活動そのものを指しているわけではありませんが、音が大さい場合など公園利用者や近隣住民がこれを不快に感じている場合は該当します。 しかし、事前に近隣住民に周知を行い、理解が得られていることや、音量が周囲の迷惑にならない程度であれば、公園の占用申請を行い、使用することに問題ははありません。	音楽演奏は2回実施しました。近隣住民への周知活動を行い、理解が得られていることや、音量が周囲の迷惑にならない程度であれば、使用することに問題ははありません。申請の際に不明な点があれば公園課の占用担当までご連絡ください。
4	中野区の魅力マップづくりグループ	○中野駅周辺が注目されがちだが、北部や南部エリアにも良さがあるはず。それなのに、その魅力が区民に伝わっていないように感じた。フィールドワークをしたところ、エリアごとに違った雰囲気や魅力、良さがあったため、それぞれのエリアに合った方法で、平等に魅力発信をして欲しい。 ・「中野駅周辺」＝「サブカルチャーや芸術・文化の中心地」として広報。例えば、クリエイター等が個展を開けるようなスペースを設置して発信できるようにする。 ・「北部・南部エリア」＝「暮らしやすい子育てしやすい街」として広報。例えば、渋谷区の「THE TOKYO TOILET」のように、公園や公共施設にアートや文化の要素も加える。	区民部 (文化振興・多文化共生推進課(シティプロモーション係))	○	「中野大好きナカノさん」プロジェクトや、中野区公式観光サイト「まるっと中野」に掲載している、区内在住・在勤・在学のリポーターが制作した記事を通じ、中野駅周辺に限らず北部・南部エリアとも魅力を発信しています。今後も、引き続き北部・南部エリアの魅力を発信していきます。 中野区新庁舎においては情報発信スペースを区民等による表現の場として活用しています。中野駅周辺が芸術・文化の発信地であることを広報しています。 また、区民が身近で触れられる文化・芸術をまちに広げる「中野ミューラルプロジェクト」を令和3年度より実施し、鷺宮小体育館(北部)、鍋横区民活動センター・カフェ カサデオリーバ(南部)においてミューラル(壁画)を制作しました。北部・南部地域が暮らしやすいまちであるという特徴を踏まえつつ、文化・芸術にも親しめる地域であることを発信していきます。	各事業を通して、中野の魅力発信につながりました。

5	年代を超えた地域交流グループ	○日頃から隣人関係が希薄であると感じている。地域の人が交流できるように、気軽に参加できる「ゆるい」イベントを実施してもよいのではないかな。 ○個人でも、今よりも気軽にイベントの企画や実行ができるようなサポート体制を作るべきではないかな。	地域支えあい推進部 (地域活動推進課)	●	○気軽に参加できる「ゆるい」イベントは、さまざまな地域において、住民の方々が主体となり数多く開催されています。「ためまっぶなかの」※1や区内に15か所ある区民活動センターを通じ、是非参加してみてください。 (※1:地域の施設等で開催する地域イベントを簡単にスマホ等を通して伝えられ、受け取れるWEBアプリケーションです。イメージとしては、まちにある掲示板を電子化したシステムです。) ○個々の思いを、地域の多種多様な方々と一緒に共有し、グループで企画・実施していくイベントの方が、地域住民にとって有益で、長続きするイベントになると考えています。是非「ためまっぶなかのネットワーク」※2を参考にしてみてください。 (※2:区民を対象とする公益活動団体や地域のつながりを支援するため、地域イベントに参加したい人、地域イベントをしている人・これからしてみたい人、地域イベントを手伝いたい人・支援したい人、を結びつけ、地域の輪を広げることを目的としているサイトです。)	引き続き、「ためまっぶなかの」の活用を進め、より気軽に参加できるイベントの紹介・周知を進めます。 イベントの企画・実行については、社会福祉協議会や区民活動センター運営委員会等によるサポート体制を整えていきます。
6	鹿材楽器を使用した演奏会グループ	○「環境問題」を前面に押し出さず、地域でイベントを実施したところ、楽しみながら参加者に対して啓発することができた。環境課題をより多世代に知ってもらうために、参加体験型の楽しめるイベントの実施が必要ではないかな。 ○「環境」という言葉を押し出さず、「楽しんでいたら結果的に環境に良いことをしている」といったイベントをもっと打ち出して欲しい。 ○中高生がイベントを開催できるように、サポートする人等の支援が欲しい。	子ども教育部 (子ども・教育政策課)	○	○中高生から連絡・相談があり次第、他課と情報共有しながら関連した地域団体を紹介します。	引き続き他課と情報共有しながら関連した地域団体を紹介する体制を整えていきます。
			地域支えあい推進部 (地域活動推進課)	●	○地域住民に向けたさまざまな活動をする団体の多くでは、運営面に中高生等の若い世代の参加も歓迎しています。そういった団体に加わり、双方の思いを共有することで、地域住民に有益な活動(イベント)を開くスキルをまずは身につけてもらえればと思います。	さまざまな団体の活動への中高生等若い世代の皆さんの参加を引き続き歓迎しています。
			環境部 (環境課)	○	環境課では、環境課題をより多世代に周知・啓発するため、体験型の環境フェア「なかのエコフェア」を11月に開催しています。また、環境緑化のイベントとして「花と緑の祭典」を年2回開催しています。こうした多世代が楽しんで体験・経験できるイベントを継続し、工夫しながら開催していきます。	環境課では、環境課題をより多世代に周知・啓発するため、体験型の環境フェア「なかのエコフェア」を11月に開催しています。また、環境緑化のイベントとして「花と緑の祭典」を年2回開催しています。こうした多世代が楽しんで体験・経験できるイベントを継続し、工夫しながら開催していきます。